

## 脳血管障害片麻痺患者から考える運動学的評価と治療による変化（総論）

スマイレ会グループ リハビリテーション法人本部 後藤 淳

トップダウン評価における治療的観点として、以下のポイントを重要視している

- 適確な模倣
- バランスのとり方の理解
- 一次的障害と二次的障害の分布
- 能力の把握（円滑に動作が出来る箇所への把握）
- 適切な介助箇所の発見
- 介助箇所に対する治療とその結果の把握

実際の動作がどのように行われているのかを理解するためには、自らの身体を通して患者の姿勢動作を具現化しておくこと、またその経験の積み重ねが、治療的観点を見つける上において重要であると考えている。また、治療的観点が発見できれば、その箇所のみに対する治療を行い、その結果に対し、治療箇所の是非並びにその方法を客観的にとらえる必要があると考えている。

本講習会では、症例の姿勢・動作の模倣を通じて、運動学的な理解と治療への展開を考えていきたい。